

花入

^ 5
6514



85
6514

陽
雲
耕
齋
文
庫

阿彌陀佛
南無阿彌陀佛

阿彌陀佛

010186022055

初

ゆづりを誰か受て止るまじ

雅女

しるすまゝ安めも此を母親

荷村

何よりも字の讀まぬ情好

去光

隣て中て世心あきま

傳教

積出の荷あは店の塞りて

其海

明教しるる海次の涼き

三子燈

白紙の並て 賑ふ夏 虫

景地

運ふ心清く遊うる 鏡

宿麻

ふ月空の交 裡月の暮涼

貞英

月入きも 呉る 芥 萱

芦丸



ちりちりと包けく子稻又立 鳴

露城

何ふまゝあゝ歩りむ牛の子

波路

明星の光りも 碧し 汗返り

安人

不意に力半に比敵虎吹

兼江

好嬌ひ有さうま好き 規汁

枕嶺

茶料 斗りて 漏ぬ 扱ひ

素吟

通人と人よ 言さる 始末く

芦城

乃よ 倚りて 冬元ぬ 福徳

梅能

彼見と 昔何年 手のおよき あり

入乃序

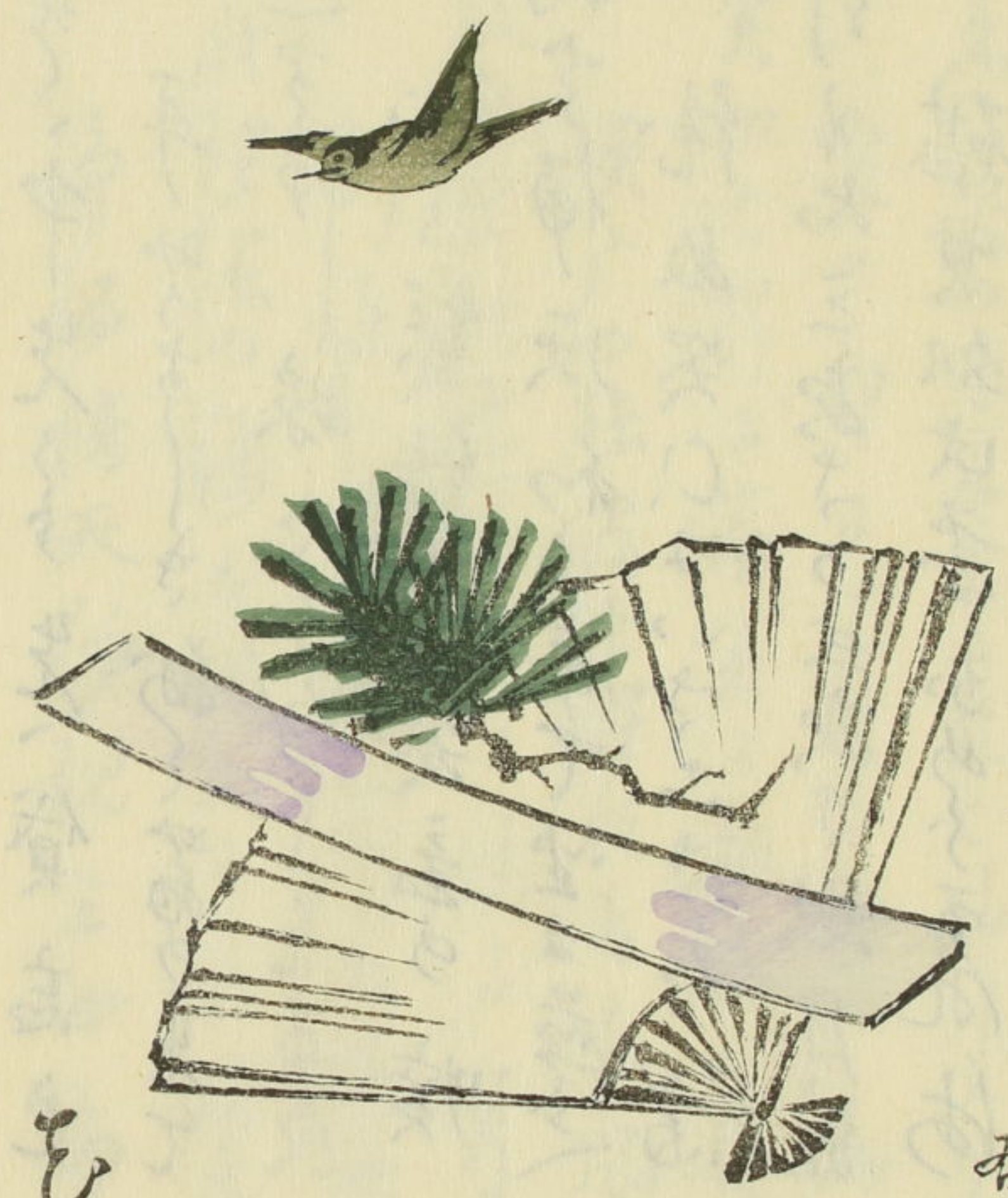
好ま 往來よ 色も 横らぬ

昇南

望り下張よつてぬ意造る習りなり
 十占しと川貫つと神引く
 来る器の速き末うねと伸上り
 家の印よて川ありあり
 煮切て引る蕎麦よ趣向あり
 須广の旅宿を醒れ春東風
 故の妻は去る所よ残る月
 列進業とて急ぐぬ後次
 并理張の襟を惜ぬき水放逐
 浄福橋天物現三四節
 谷松
 是水
 拾柴
 三休
 塾子
 南枝
 公羨
 霍季
 梅居
 采歌

貸く半先く先、貸志造
 耳やうきき揃くおのまて
 起す帝一嫁をくりく氣道貞
 留る髪結ふ髪直の噴
 相寄挿灰初々帯て坐よ並ふ
 絶ぬ笑ひいさおさる痛
 新もろ三おさる三おさ照月紅
 礎其知はまあめく可れ海
 由干宮よ参る由徳のまろり多
 夢歩元太割る机脱
 義豊
 淡舟
 梅秀
 多吉
 旬香
 旭
 作窓
 香月
 美徳
 俊歌

望を結る人も鶴鳥も 南嶺
 友らうきし 聖は花ふき 梅雪
 右二打



玉招

各々端書略之
 泉曠子立机祝詞

音のして日毎太る也 喜の心 百歌
 書その也 噴立川 草のゆき 柳雪
 榎の香は床 机の居とえん 風流
 松建て 娘の神女 喜は花門 難友
 高の樹と花 咲松付有る多 瓢池
 床の宵は生 噴の 玉 椿村
 立川喜也 梅は居 旭の力 柴浦
 書の名は 白ふ也 立川机 九集

楚より山より廣く存在也上ひより
 其亦年の四方より吹くて揚を在
 昇る旭也札より其より梅は影
 笑すくむ梅の影より喜心
 龍以後亦よ其知亦を揚を在
 梅の影日毎廣く存在く如
 末廣く流きて其より喜心の
 神也也その連く其より世の端
 亦存在也その連く其より喜心の
 亦存在也その連く其より喜心の

芳里
 蟻乃
 味石
 如之
 似如
 公序
 其元
 其元
 其元

誰も皆 喜心也是れ初其の
 接噴の意は性也玉は其の
 喜心も山より亦も新札
 其里は其様笑て喜心
 其喜心も山より亦も新札
 活と市七噴立川梅の喜心
 柳の喜心も山より亦も新札
 其喜心も山より亦も新札

公義
 三手燈
 口外他
 其元
 其元
 其元

浪多江や葦の芽立此日よる 芦丸

一騎抜机の色也 玉 椿 玉海陸

新しき門の出入也 玉 常 波路

又うはは也 東副一 藤 梅 交仙

玉の各枝 咲 噫 又 竹 椿 素香

新玉 枝 光 夫 ゆ 四方 入 厚

飾らぬと 松を 茶 有 為 中 塚 住友

色 咲 寸 松 也 尽 ま ぬ 奇 柱 伸 延

は 點 之 替 心 枝 之 色 道 草 始 真英

よ 其 の 色 ま じ 可 也 権 も 奇 地 杉 安人

よ 一 一 一 一 一 伸 一 山 一 宗風

机 一 一 一 一 一 流 の 一 福 前 子 松 嶽

一 一 一 一 一 一 一 一 一 玉 枝 昔 始 素 吟

長女身も一札の

とてく書きたるなり

東京 其鳳子

梅柳草一本と安部一和 永権

玉のこも好くうり 柳の店とらん 草堂

茶のうらま 梅咲くとも 草紙 曲の

書きたるや 抄の 走る ありの 心 柳

あゝむの 光り 抄の 也 藤の 心 柳

葉の 名の 柳の 心 也 梅の 心 柳

藤の 戸の 此の 明の 也 葉の 柳の 心 柳

今也 藤の 心 柳の 心 也 藤の 心 柳

上

二

けし机披露^梅の尾^{より}尻^{より}ひて
勅題梅を思はせ此^三字^一を^一め^一を^一期^一を^一視^一ぬ

先^一吟^一て^一ま^一を^一福^一の^一梅^一 夕映

玉^一夢^一は^一梅^一廿^一の^一夢^一の^一夢^一の^一水^一 五^一珠

水^一能^一の^一尾^一の^一尾^一の^一尾^一の^一水^一 一^一采

末^一度^一の^一流^一の^一流^一の^一流^一の^一水^一 臨^一水

色^一は^一夢^一の^一色^一の^一色^一の^一色^一の^一水^一 秀^一海

月^一を^一梅^一種^一の^一向^一の^一松^一の^一水^一 尖^一山

梅^一の^一玉^一の^一玉^一の^一玉^一の^一心^一の^一水^一 陸

玉の舟^一の^一梅^一の^一梅^一の^一梅^一の^一梅^一 松^一畫
咲^一の^一梅^一の^一梅^一の^一梅^一の^一梅^一 梅^一秋
梅^一の^一梅^一の^一梅^一の^一梅^一の^一梅^一 遠^一水

子^一代^一の^一夢^一の^一梅^一の^一梅^一の^一梅^一の^一梅^一 去^一芳
幹^一の^一梅^一の^一梅^一の^一梅^一の^一梅^一の^一梅^一 拾^一案
梅^一の^一梅^一の^一梅^一の^一梅^一の^一梅^一の^一梅^一 是^一水
是^一の^一梅^一の^一梅^一の^一梅^一の^一梅^一の^一梅^一 昇^一南
よ^一の^一梅^一の^一梅^一の^一梅^一の^一梅^一の^一梅^一 俊^一龍

梅屋にて櫻之葉ある木梅屋
 末廣ふ侍道はれよ、神のり
 岩敷道き——
 四方と布——
 札とと花堂と川梅

梅屋
 三更
 交江
 三更

あつたふり 札と竹と
 あつたふり 吹度うも也
 澤神也 何ふと

ふ乙
 水月
 柳店

大木のぬを伸るる也 神宮
 玉の名姓 札と 神旭 迎ふり
 指さす 七巻ぬく 梅の屋
 皆同—— 心付ある 山
 流るる 梅屋
 咲く 梅屋
 水の流 梅屋
 信を 梅屋

浮世
 平泉
 陸生
 思古
 佳音
 孤舟
 松歌

梅咲也皆... 梨原
まきまの... 旭の良 芦月

妻... 習岩

活... 荏破

駿... 松塔

一... 梅甲

山... 耕山

太... 梅好

何... 叶夏

... 柴月

... 梅岳

... 一醉

... 進取

玉... 梅居

... 九采

の... 棟樑

あつしを也きよる有。想を
笑かる梅也。乾白少節
席友

積由の流る。娘の
馬鹿

笑進む別はる。也。強神
馬鹿

比綴。比。陰の有。は梅を也
馬鹿

ふれの上。まき。ぬ。神の梅
善岳

お。一。流の甘。も。ふ。こ。ま。の。交
甘貞

ふれ水。響り。流る。梅
新風社
有秀

ま。こ。と。甘。踏。吹。神。の。梅
里味

青柳。の。乾。白。く。ま。想。を
米色

神。心。を。流。り。の。水。也。梅。花
有香

昔。の。京。を。流。る。く。神。也。の。梅。花
柳文

昇。の。想。の。流。り。の。白。く。梅。花
梅琴

風。ぬ。区。し。布。を。吹。く。梅。花。白。く。の
気流

中。方。の。想。を。織。る。旭。の。神。梅。花
梅玉

あ。つ。し。を。響。り。流。る。の。梅。花
其祥

雪もや白く霞も白く 一丈

あやもや白く霞も白く 一丈

あやもや白く霞も白く 一丈

あやもや白く霞も白く 一丈

あやもや白く霞も白く 一丈

あやもや白く霞も白く 一丈

あやもや白く霞も白く 一丈

あやもや白く霞も白く 一丈

小松引年より子孫の也五代の歌
經天より玉後も有るなり
笥書

梅咲てきこ一入の法園うね
昇る想を空を床也松を
男山

有東望也松も海も
元日也とて松も此皆あり
相持
米途

日向の玉やい丹の玉桂塚
玉川の海邊を眺むる水の
音の
陶室

仰る松もあま松も
嘆そめてもさうあま
音の
浦山

松も梅も立派な之ゆの庵りうね
玉桂丸のりも
留安踏書て光る
八十五
七十八
一山

上至名有之竹之福壽堂子日 茶碗
梅之福を造るも有て神あり、 李瓶

皆結くわい——くわい水すい子し百千ひゃくせん子し 美光

其元也伸ひる柳花銀信火 露水

龜石玉乃及虫光之那—— 佳石

人好の寸原幹あり也玉柳 寸話

書、卯也一字くく姓ありあり 梅條

接木して親の名はまも海か 味酸

柳より葉の音——梅の心 席土

昇るちと卒の廣く空を渡る 芦海

至きこれよこ親——こ女の心 一松

神也や是よりこ葉のこ心は木 龜山

笑そめて人よ去らぬ梅の如 石山人

其命——こあり上戸也こ梅の魂 作羽茶

充ちぬまにこ葉のこ心は梅 梅若

泉園遊記



言堂殿以...
尾の...
...
...

泉園



昭治林六